

## 第 2 章

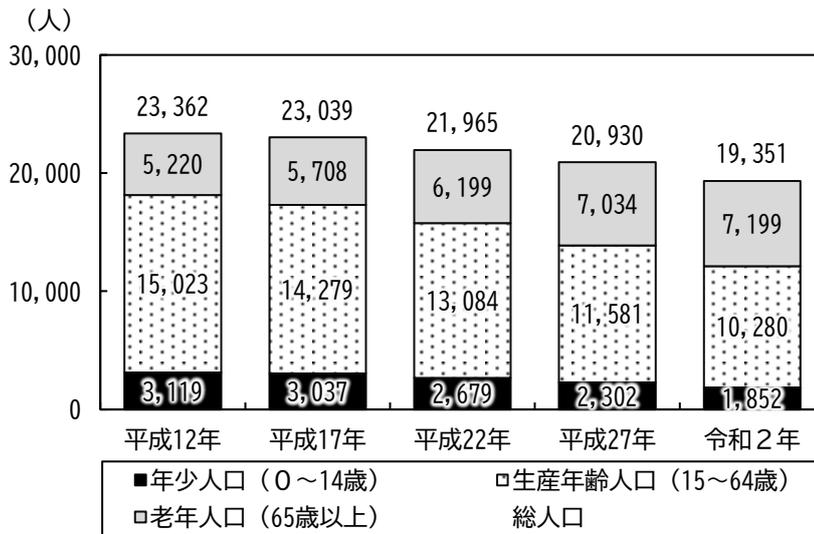
### 上市町の現状

# 1 人口等の状況

## (1) 総人口の状況

年齢3区分別人口の推移をみると、総人口は年々減少しており、令和2年では19,351人となっています。年少人口、生産年齢人口は減少傾向にあり、老年人口が増加傾向にあることから、少子高齢化が進んでいることがうかがえます。

### ■年齢3区分別人口の推移

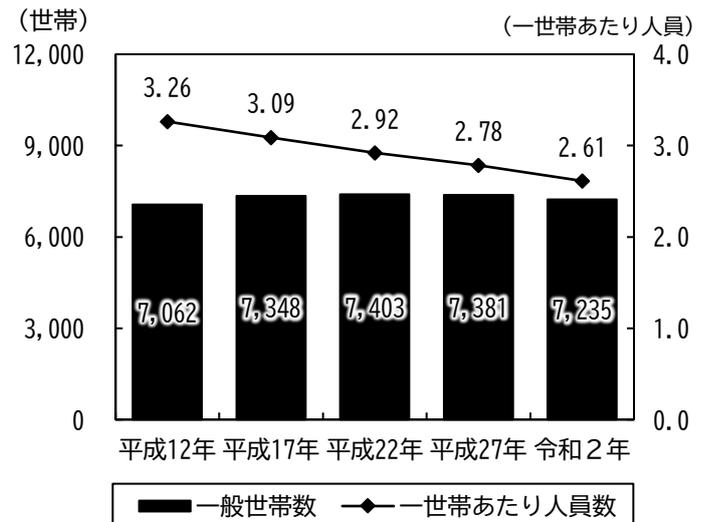


資料：国勢調査  
※総人口には年齢不詳人口を含む。

## (2) 世帯の状況

世帯数と一世帯あたりの人員数の推移をみると、平成22年まで一般世帯数は増加していましたが、平成27年からは減少傾向にあります。また、一世帯あたりの人員数は年々減少しています。

### ■一般世帯数と一世帯あたりの人員数の推移

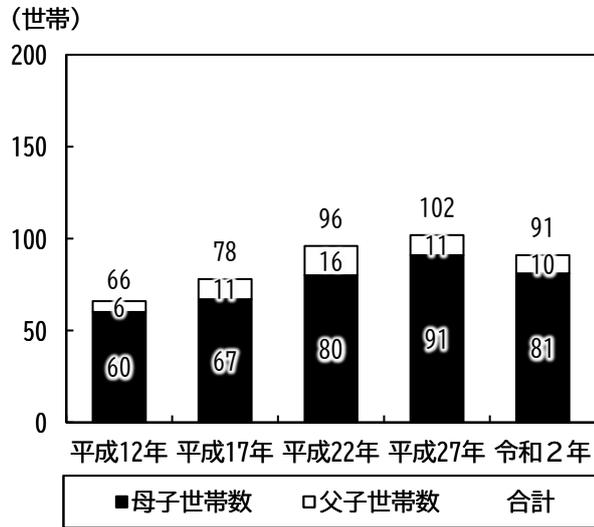


資料：国勢調査

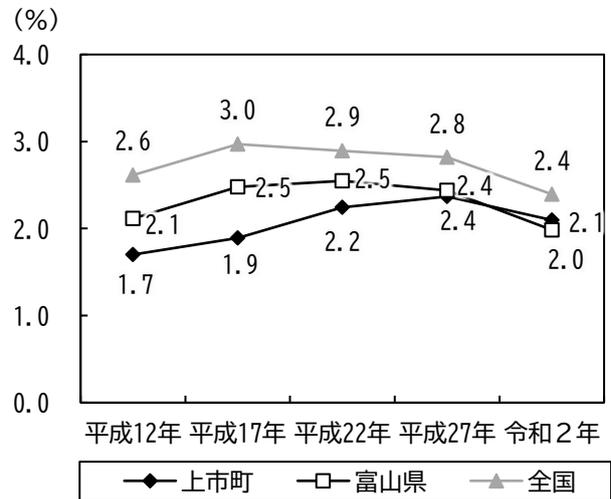
ひとり親世帯数の推移をみると、平成 27 年まで増加傾向にありましたが、令和 2 年では母子世帯 81 世帯、父子世帯 10 世帯と減少しています。

ひとり親世帯割合の推移を全国、富山県と比較すると、低い水準となっていますが令和 2 年では富山県より高くなっています。

■ひとり親世帯数の推移



■ひとり親世帯割合の推移（全国、富山県比較）



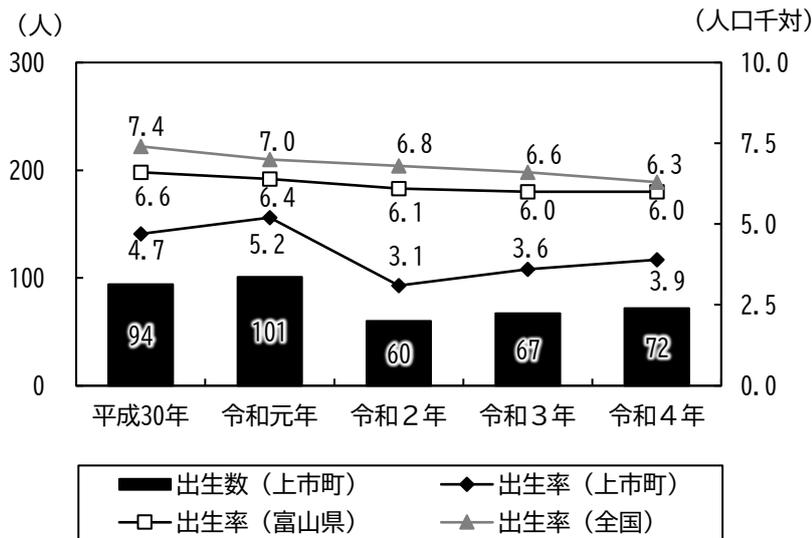
(左図・右図) 資料：国勢調査

※ひとり親世帯割合は、核家族世帯数のうちのひとり親家庭から割合を算出

### (3) 出生数・出生率の状況

出生数・出生率の推移をみると、出生数は増減しながら推移しており、令和 4 年では 72 人となっています。出生率は、全国、富山県と比較して低く推移しています。

■出生数・出生率の推移（全国、富山県との比較）

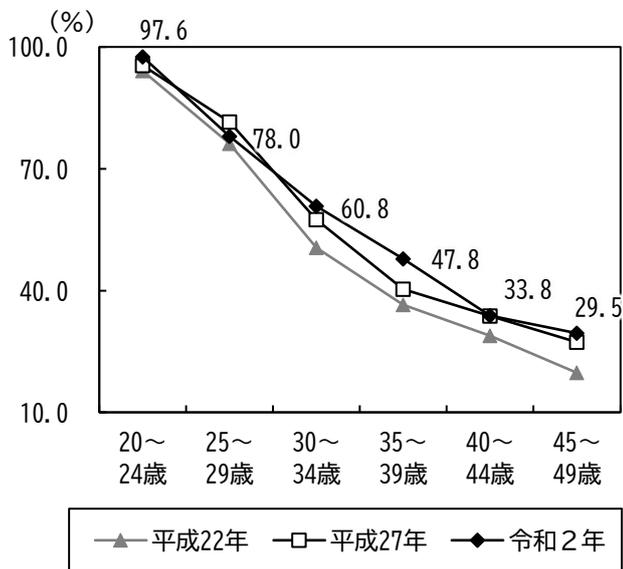


資料：富山県人口動態統計

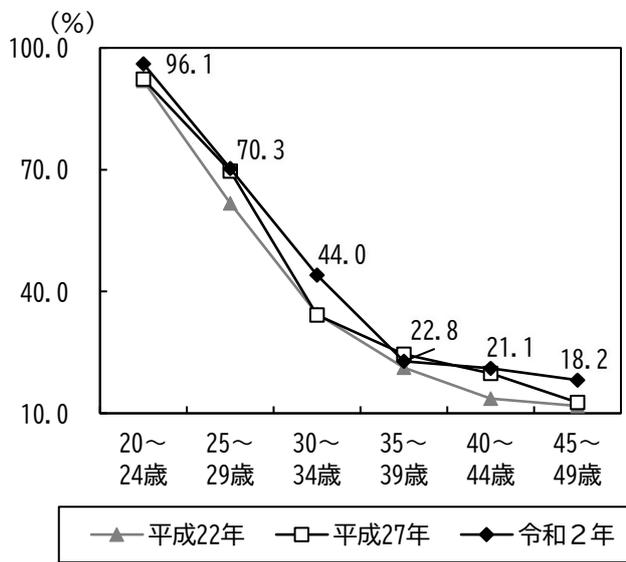
## (4) 婚姻の状況

未婚率の推移をみると、男性では30代の中間層での未婚率が高くなっています。女性では20代から30代前半でそれぞれ未婚率が高くなっており、男女ともに未婚化・晩婚化が進んでいます。

■ 未婚率の推移（男性）



■ 未婚率の推移（女性）

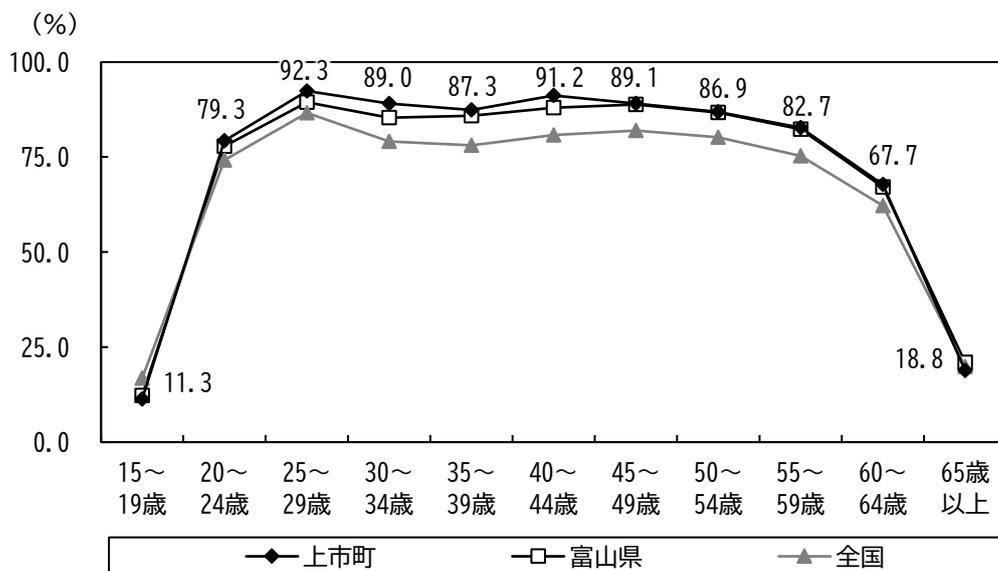


資料：国勢調査

## (5) 女性の労働の状況

女性の労働力率を全国、富山県と比較すると、20代後半から40代前半にかけて高くなっています。

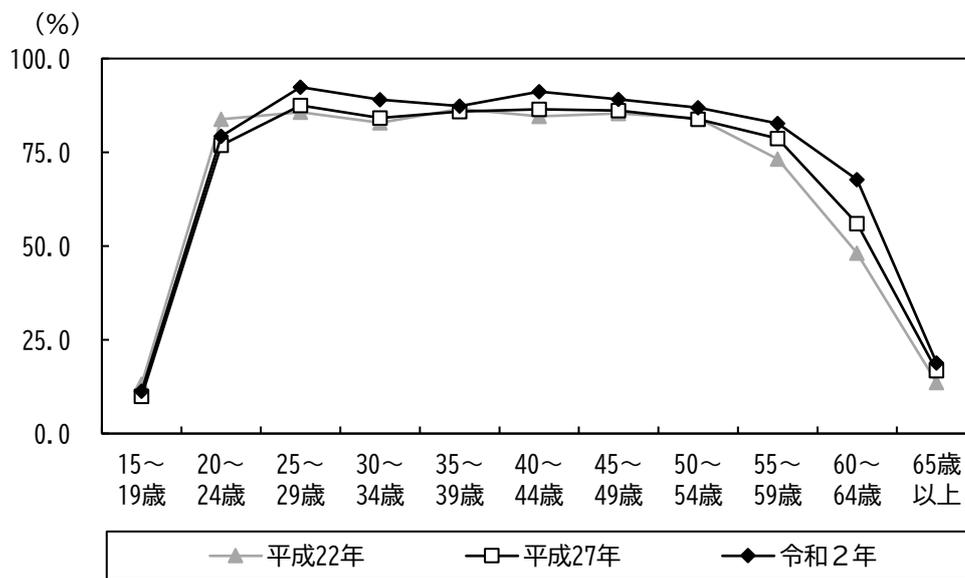
■ 女性の労働力率（全国、富山県との比較）



資料：国勢調査（令和2年）

女性の労働力率を平成 22 年、平成 27 年と比較すると、令和 2 年では 20 代後半からの労働力率が増加傾向にあります。

■女性の労働力率（平成 22 年、平成 27 年との比較）



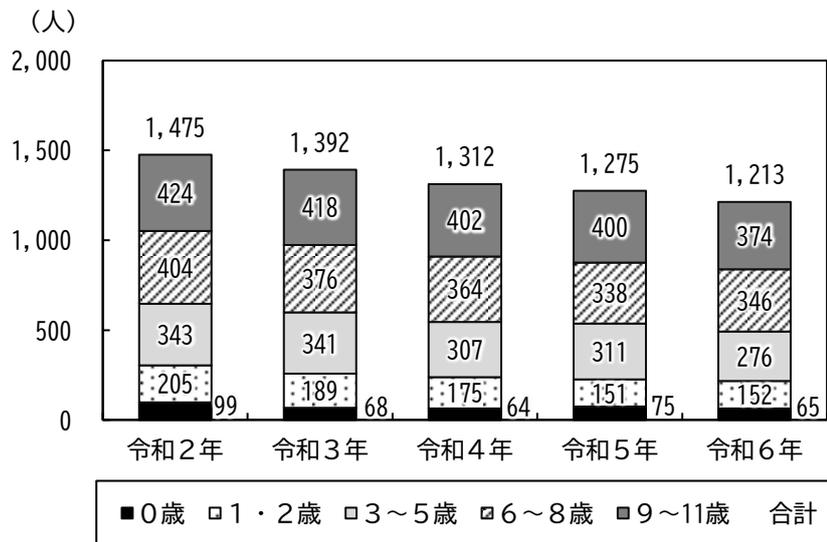
資料：国勢調査

## 2 教育・保育の状況

### (1)乳幼児・児童数の状況

年齢別乳幼児・児童数の推移をみると、合計人数は年々減少傾向にあり、令和6年では1,213人となっています。

■年齢別乳幼児・児童数の推移



(単位：人)

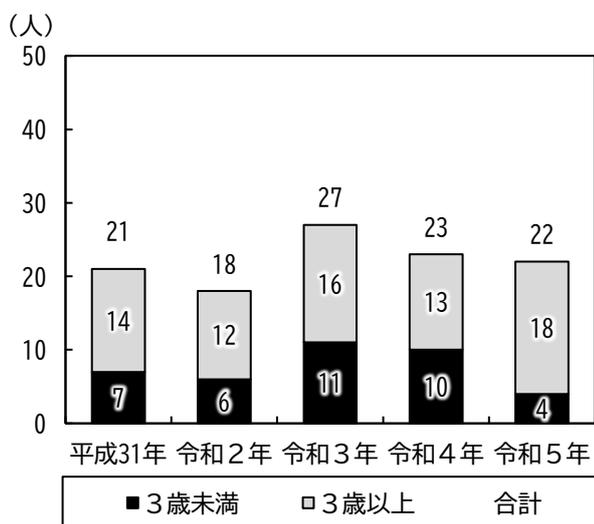
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
0歳	99	68	64	75	65
1歳	91	102	72	74	76
2歳	114	87	103	77	76
3歳	109	116	86	105	78
4歳	119	107	115	88	106
5歳	115	118	106	118	92
6歳	135	114	119	107	121
7歳	131	131	113	118	108
8歳	138	131	132	113	117
9歳	137	136	129	134	113
10歳	143	138	137	129	133
11歳	144	144	136	137	128
合計	1,475	1,392	1,312	1,275	1,213

資料：住民基本台帳（各年4月1日）

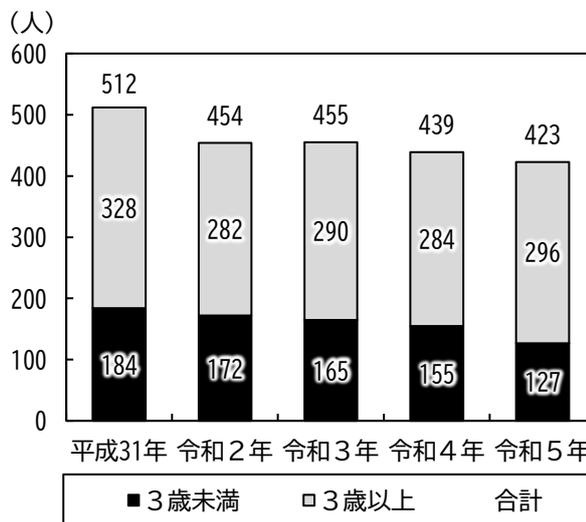
## (2)通園する園児数の状況

保育所に通園する園児数の推移をみると、町立、私立ともに園児数は令和3年以降、減少傾向にあります。また、町立、私立ともに3歳未満は減少傾向にありますが、3歳以上の園児数は増加傾向にあります。

■町立保育所に通園する園児数の推移



■私立保育所に通園する園児数の推移

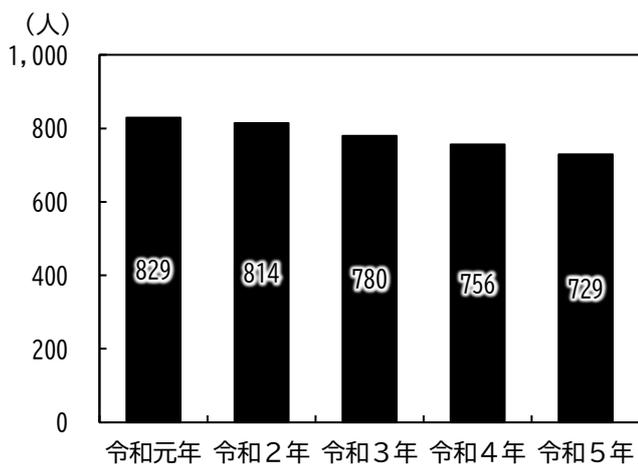


(左図・右図) 資料：上市町第29回統計書 令和5年度(各年4月1日)

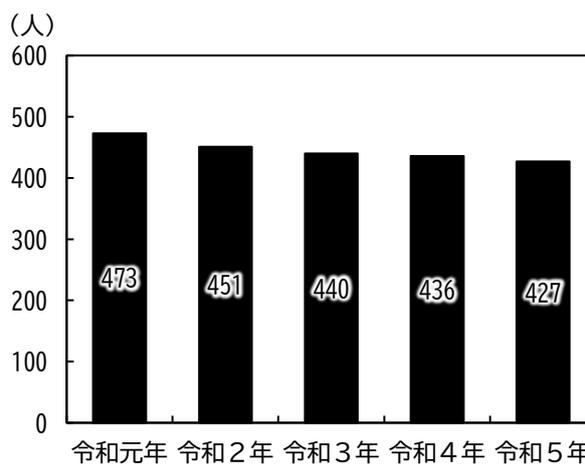
## (3)通学する児童数、生徒数の状況

通学する児童数、生徒数の推移をみると、小学校、中学校ともに年々減少しており、令和5年では小学生児童数729人、中学生生徒数427人となっています。

■小学校に通学する児童数の推移



■中学校に通学する生徒数の推移



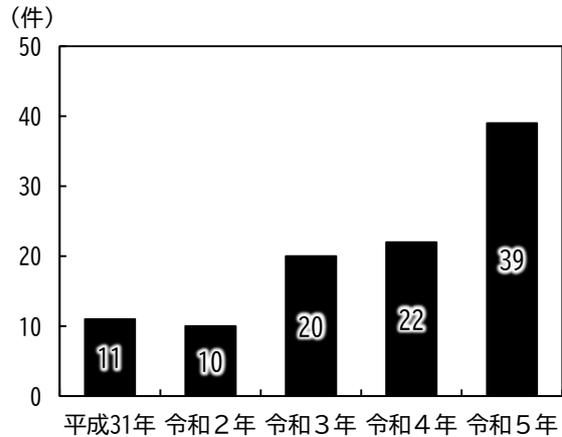
(左図・右図) 資料：上市町第29回統計書 令和5年度(各年5月1日)

### 3 支援を必要とするこども・若者・家庭の状況

#### (1) 児童虐待の状況

児童虐待等相談対応件数の推移をみると、平成30年から増減しながら推移しており、令和5年は39件となっています。また、令和2年には10件となっており、令和3年から急増しています。虐待の予防を強化しながらも、相談時の対応や適切な支援につなげるための体制整備が必要となります。

■ 児童虐待等相談対応件数



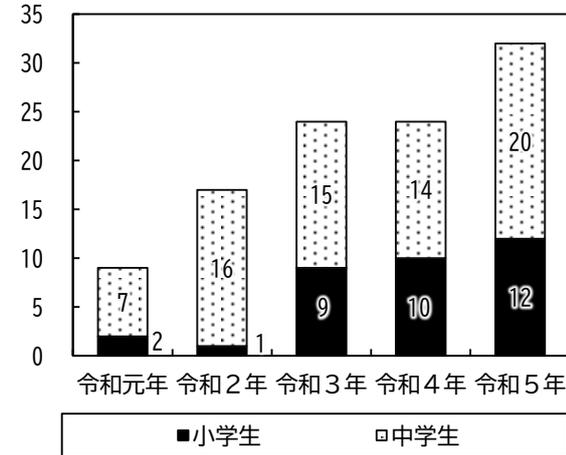
資料：上市町子育て支援ネットワーク連絡会議資料（各年3月31日）

#### (2) 不登校児童生徒の状況

不登校児童生徒数の推移をみると、年々増加しており、令和5年では小学生、中学生あわせて32人となっています。小学生児童、中学生生徒ともに、過去5年間で最も多くなっています。

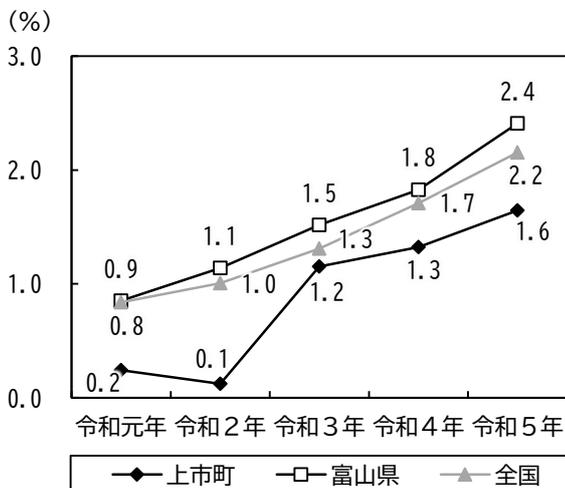
また、各年の在籍児童生徒数と不登校児童生徒数から割合を算出し、全国、富山県と比較すると、本町は低い水準となっていますが、全国、富山県同様増加傾向となっています。

■ 不登校児童生徒数の推移

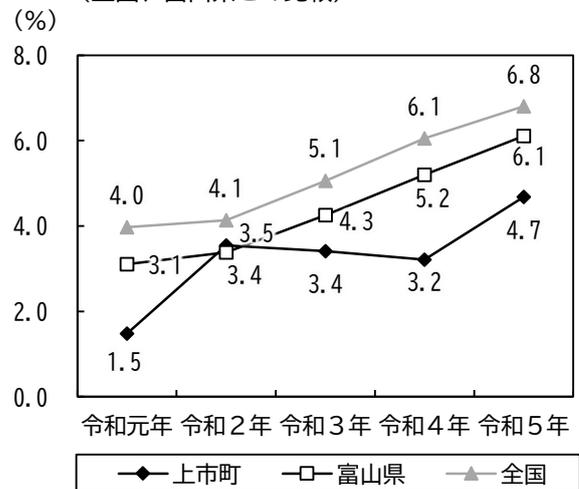


資料：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

■ 小学校在籍児童に占める不登校児童割合の推移 (全国、富山県との比較)



■ 中学校在籍生徒に占める不登校生徒割合の推移 (全国、富山県との比較)



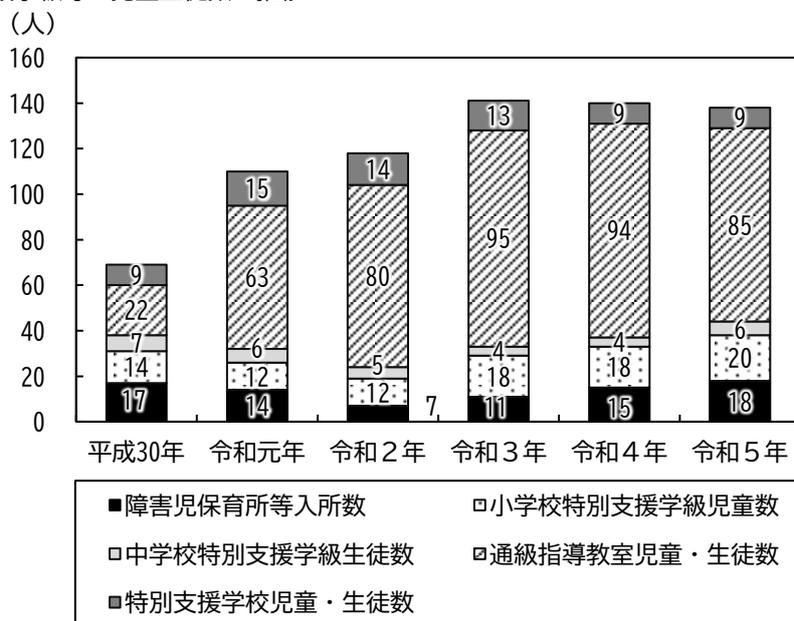
資料：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

(全国・富山県の在籍児童生徒数) 学校基本調査 (各年5月1日)  
(上市町の在籍児童生徒数) 上市町第29回統計書 令和5年度 (各年5月1日)

### (3)障害のある児童生徒の状況

障害児保育・特別支援学級等の児童生徒数の推移をみると、障害児保育所等入所数、小学校特別支援学級児童数、中学校特別支援学級生徒数において令和2年から令和5年にかけて増加しています。

■障害児保育・特別支援学級等の児童生徒数の推移

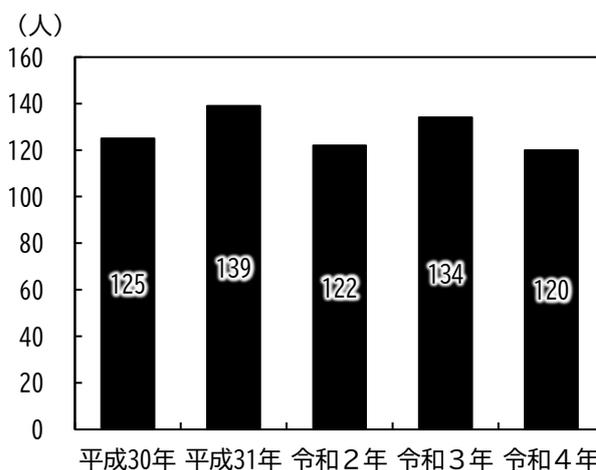


資料：第7期上市町障害者福祉計画（各年5月1日）

### (4)児童扶養手当受給者の状況

児童扶養手当受給者数の推移をみると、増減しながら推移しており、令和4年では120人となっています。

■児童扶養手当受給者数の推移



資料：上市町福祉課資料（各年4月1日）

## 4 各種調査の状況

### (1)各種調査の実施概要

本町の子育て支援施策を一層充実させるため、保護者の保育ニーズや子育て支援サービスの利用状況・利用意向、子育て世帯の生活実態、要望・意見等を把握することを目的に、「ニーズ調査」や「ヤングケアラー調査」を実施しました。また、こども・子育て支援を行っている現場やこども・若者本人が感じている課題や意向を把握することを目的に、「団体ヒアリング」「こども・若者の意見聴取」を実施しました。

#### ■実施概要

調査区分		実施方法	配布数	有効回収数	有効回収率
ニーズ調査	就学前児童保護者	郵送配布・回収	500件	239件	47.8%
	小学生児童保護者		750件	323件	43.1%
ヤングケアラー調査	中学生・高校生	WEB回答	回収状況	675件	
	教職員		回収状況	69件	
団体ヒアリング		シートによる聞き取り	回収状況	18団体	
こども・若者の意見聴取		シートによる聞き取り	回収状況	43件	

### (2)ニーズ調査結果

※図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表します。

※グラフ中の「就学前」は「就学前児童保護者調査」を、「小学生」は「小学生児童保護者調査」を簡略化したものです。

※比較に使用している「前回調査」は、平成31年1月に実施した「上市町子ども・子育てに関するニーズ調査」を指します。

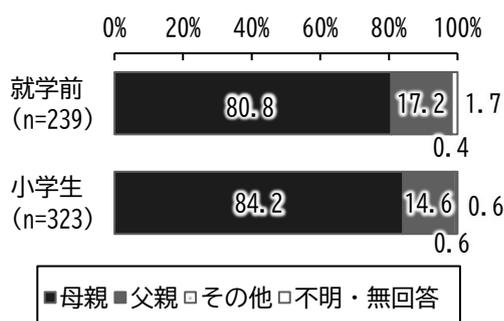
※回答結果の割合「%」はそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、合計値が100.0%にならない場合があります。

#### ① 回答者の属性

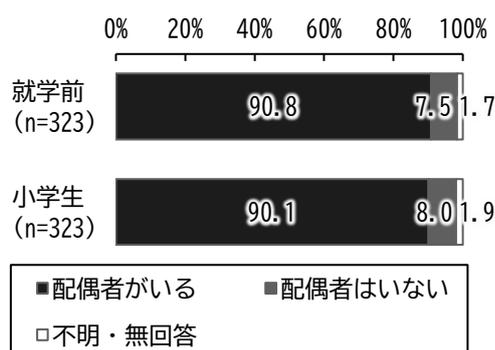
○調査回答者は、「母親」が就学前、小学生ともに8割を超えています。

○回答者の配属関係は、「配偶者がいる」が就学前、小学生ともに約9割となっており、「配偶者はいない」（ひとり親）は、それぞれ約1割となっています。

#### ■調査回答者



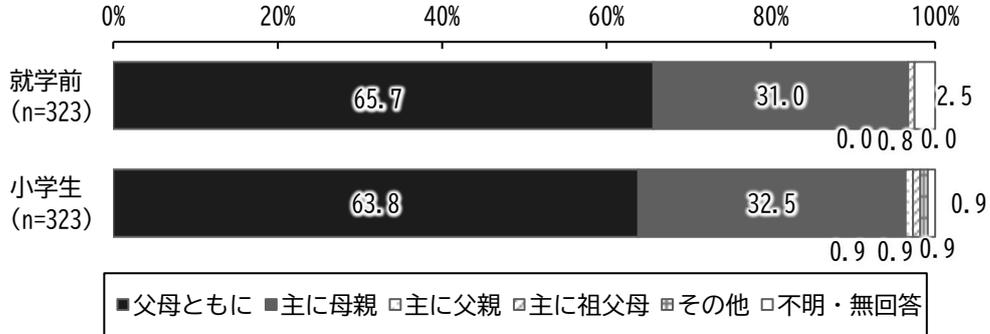
#### ■回答者の配偶関係



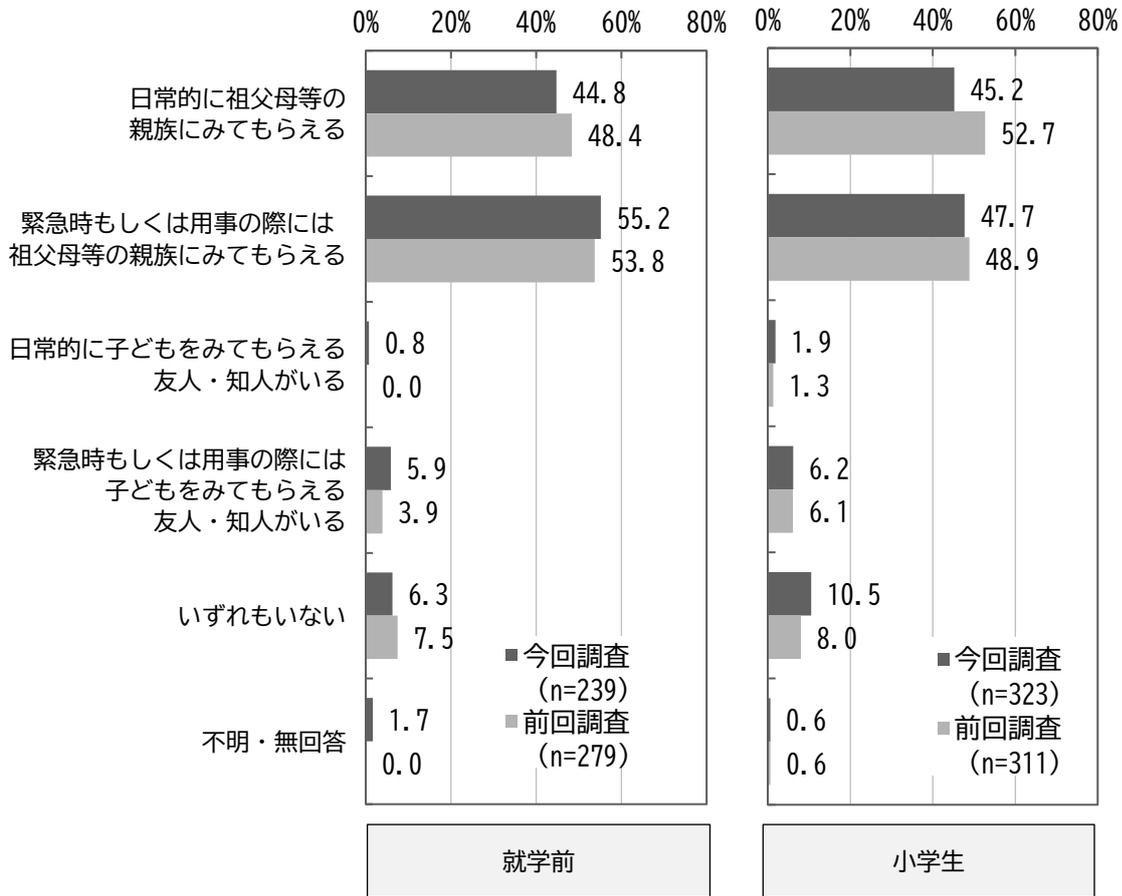
○主に子育てをしている方は、「父母ともに」が就学前、小学生ともに6割台となっています。

○日頃、こどもをみてもらえる親族・知人の状況は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が就学前、小学生ともに最も高くなっています。小学生では、「いずれもない」が前回調査と比較してやや高くなっています。

■主に子育てをしている方



■日頃、こどもをみてもらえる親族・知人の状況



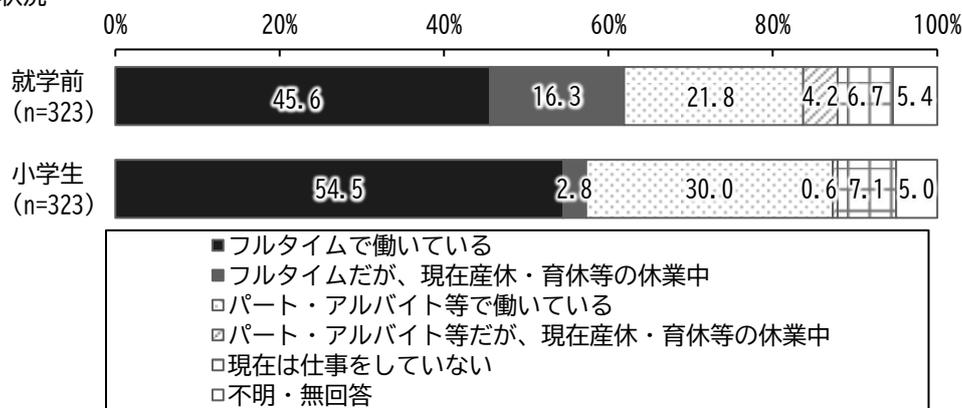
## ② 就労状況

○母親の就労状況は、「フルタイムで働いている」が就学前、小学生ともに約5割となっています。就学前では、「フルタイムだが、現在産休・育休等の休業中」が16.3%と小学生より高く、小学生では、「パート・アルバイト等で働いている」が30.0%と就学前より高くなっています。

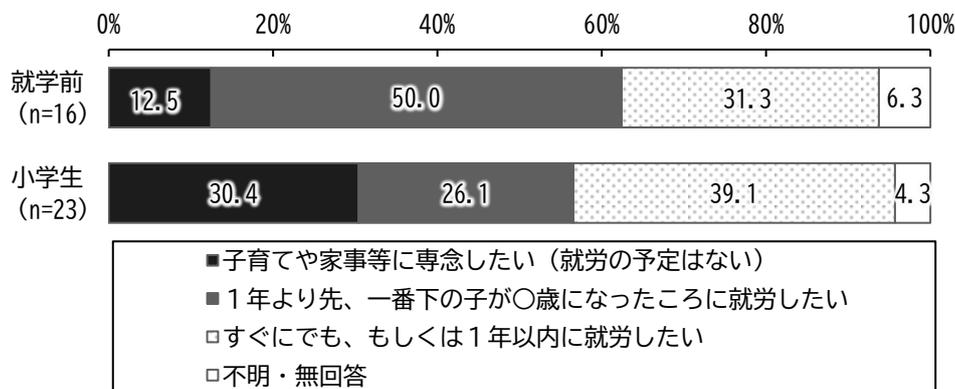
○仕事をしていない母親の就労意向は、就学前では「1年より先、一番下の子が〇歳になったころに就労したい」が50.0%と最も高く、小学生では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が39.1%と最も高くなっています。こどもが小学生にあがったら就労したい、と考える母親が多いことがうかがえます。

○就学前の育児休業の取得状況は、「取得した（取得中である）」が母親、父親ともに前回調査より高くなっています。

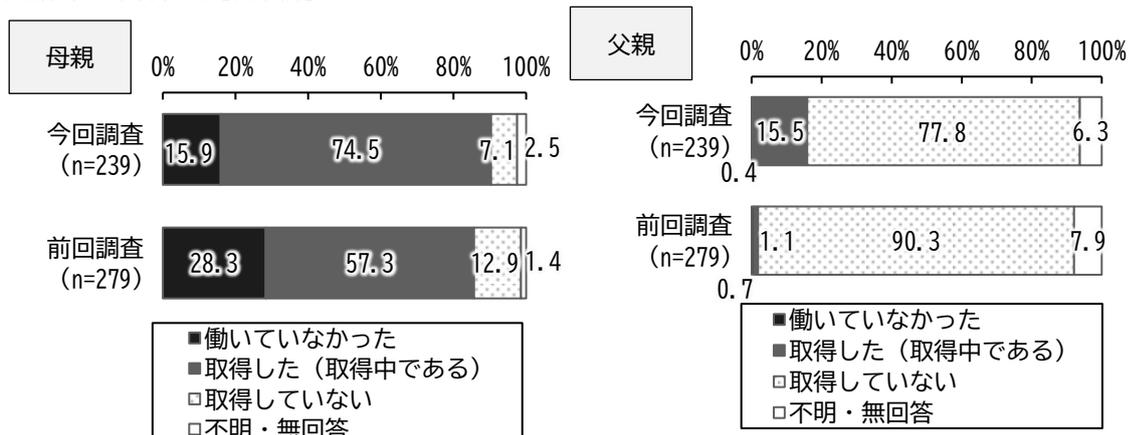
### ■母親の就労状況



### ■仕事をしていない母親の就労意向



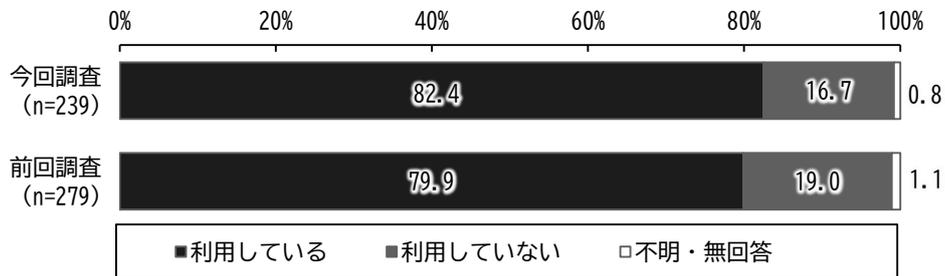
### ■育児休業の取得状況〔就学前〕



### ③ 幼児教育・保育事業について

○定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が82.4%と前回調査より高くなっています。

■定期的な教育・保育事業の利用状況〔就学前〕

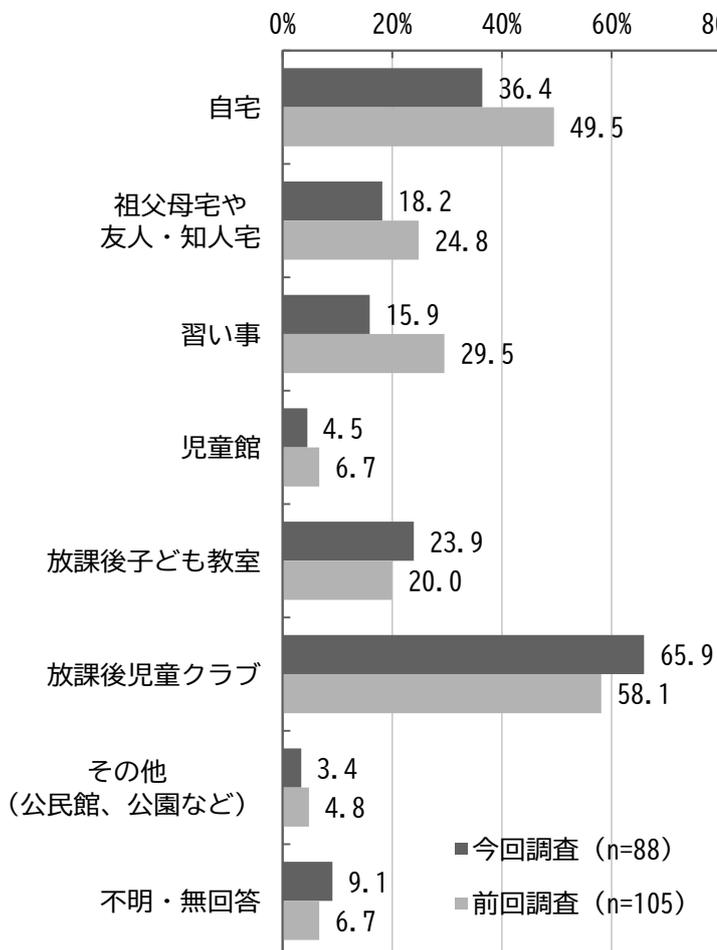


### ④ 放課後の過ごし方について

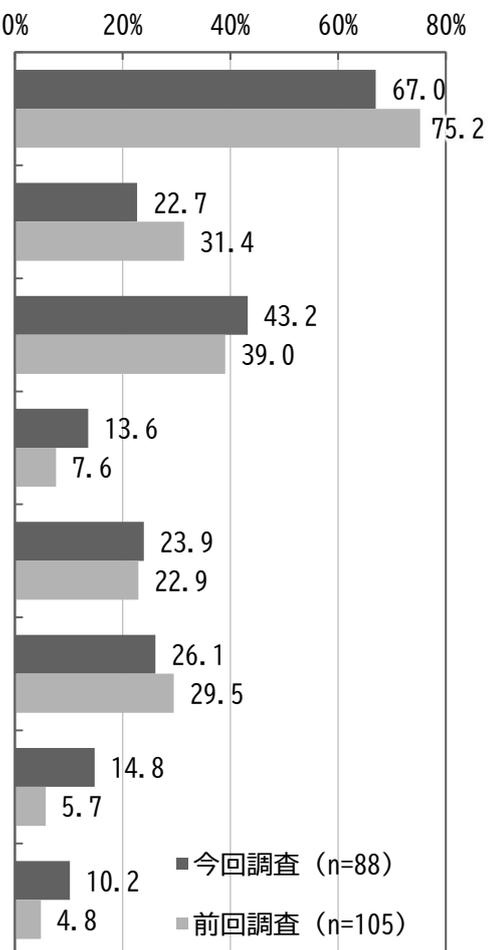
○小学校就学後（低学年）の希望する放課後の過ごし方は、「放課後児童クラブ」が65.9%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、「放課後子ども教室」「放課後児童クラブ」の希望が高くなっています。

○小学校就学後（高学年）の希望する放課後の過ごし方は、「自宅」が67.0%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、「習い事」「児童館」「放課後子ども教室」「その他（公民館、公園など）」の希望が高くなっています。

■5歳以上の子がいる保護者が小学校就学後（低学年）に希望する放課後の過ごし方〔就学前〕



■5歳以上の子がいる保護者が小学校就学後（高学年）に希望する放課後の過ごし方〔就学前〕

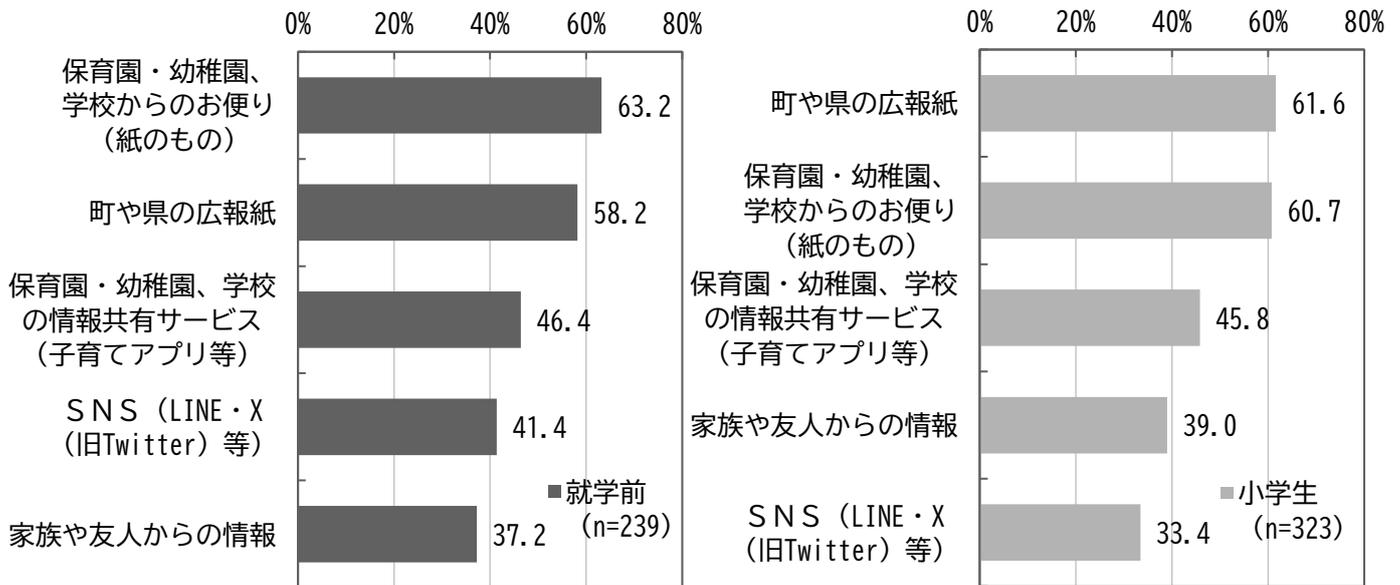


⑤ 子育て全般について

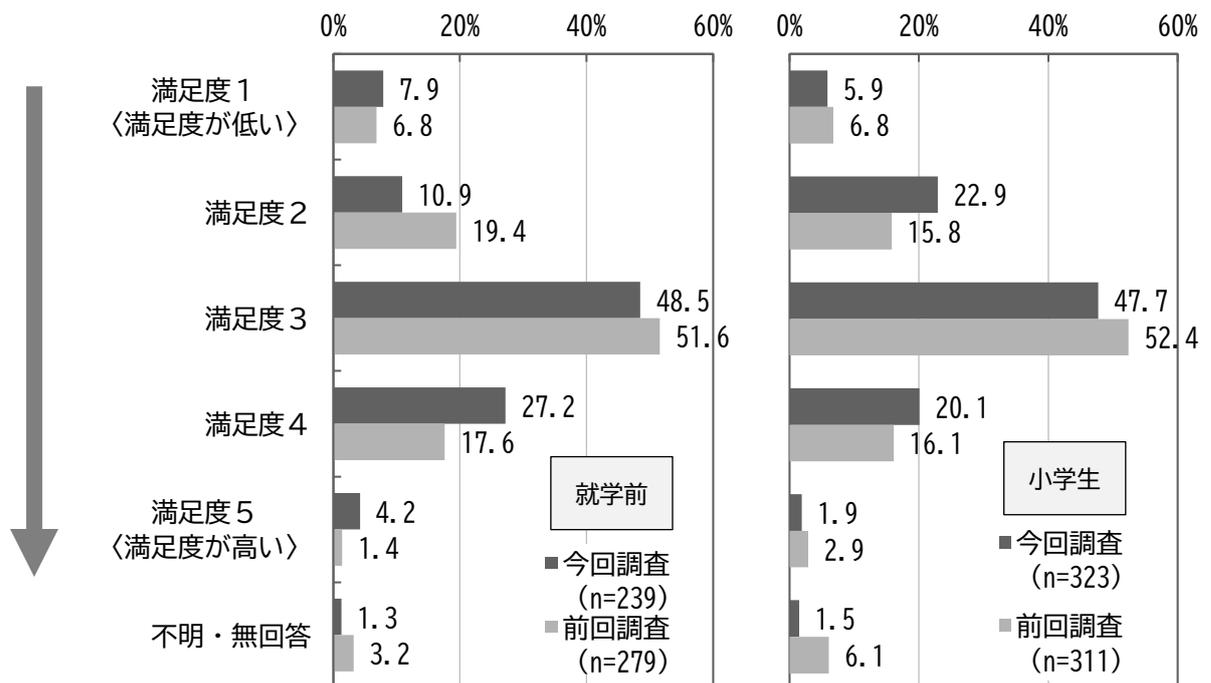
○情報の入手方法は、就学前、小学生ともに「保育園・幼稚園、学校からのお便り（紙のもの）」「町や県の広報紙」など紙媒体での入手希望が高くなっています。また、「保育園・幼稚園、学校の情報共有サービス（子育てアプリ等）」「SNS（LINE・X（旧Twitter）等）」の電子媒体での入手希望も高くなっています。

○子育て環境の満足度は、就学前、小学生ともに「満足度3」が最も高くなっています。就学前では、「満足度4」が前回調査より9.6ポイント高くなっていますが、小学生では「満足度2」が前回調査より7.1ポイント高くなっています。

■情報の入手方法 ※上位5位



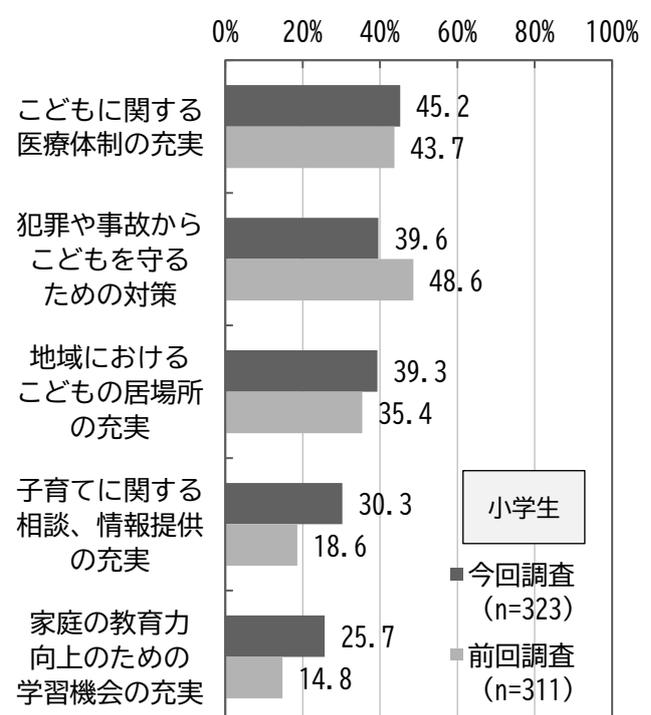
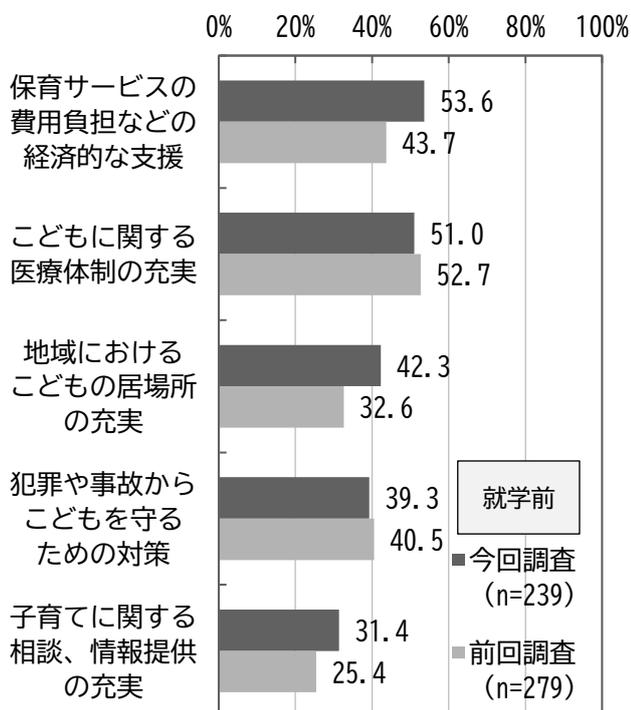
■子育て環境の満足度



○本町の子育て支援施策に期待することは、就学前では「保育サービスの費用負担などの経済的な支援」が53.6%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、上位5位のうち、「保育サービスの費用負担などの経済的な支援」「地域におけるこどもの居場所の充実」「子育てに関する相談、情報提供の充実」が高くなっています。

○小学生では、「こどもに関する医療体制の充実」が45.2%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、「こどもに関する医療体制の充実」「地域におけるこどもの居場所の充実」「子育てに関する相談、情報提供の充実」「家庭の教育力向上のための学習機会の充実」が高くなっています。

■本町の子育て支援施策に期待すること ※上位5位



### (3) ヤングケアラー調査結果

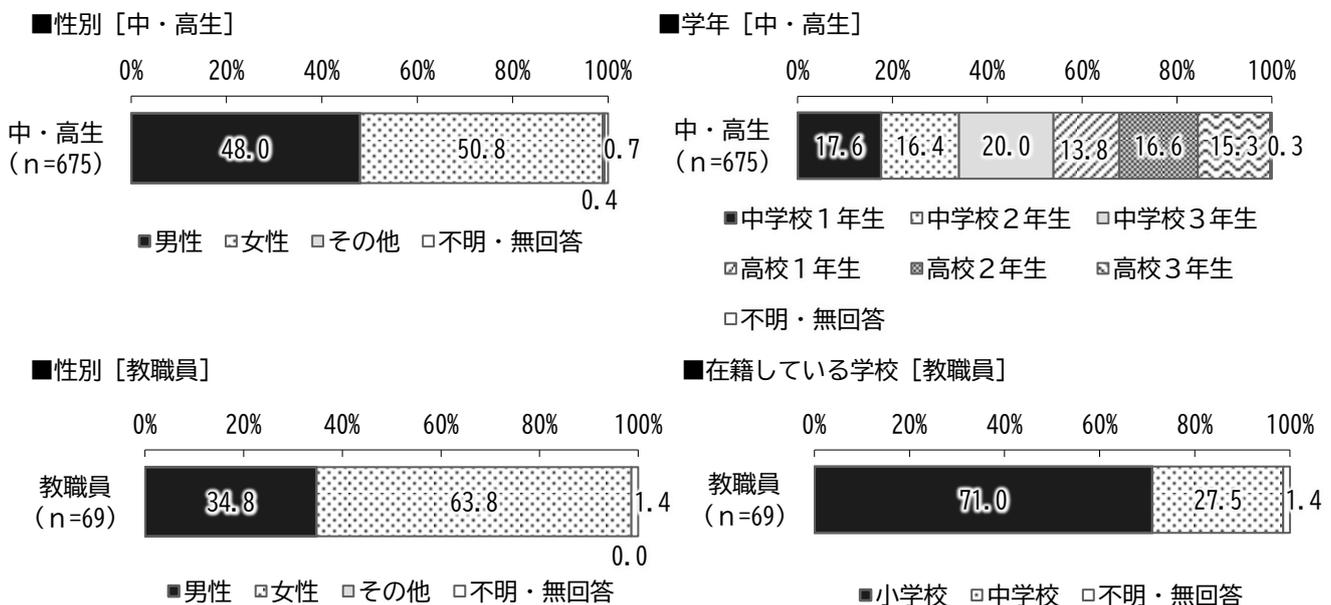
※ヤングケアラーとは、「本来、大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、こども自身がやりたいことができないなど、こども自身の権利が守られていないと思われるこども」のことです。

※グラフ中の「中・高生」は「中学生・高校生対象調査」を、「教職員」は「教職員対象調査」を簡略化したものです。

#### ① 回答者の属性

○中・高生の回答者の性別は、「男性」が48.0%、「女性」が50.8%、学年は、『中学生』（中学校1年生～中学校3年生の合算）が54.0%、『高校生』（高校1年生～高校3年生の合算）が45.7%となっています。

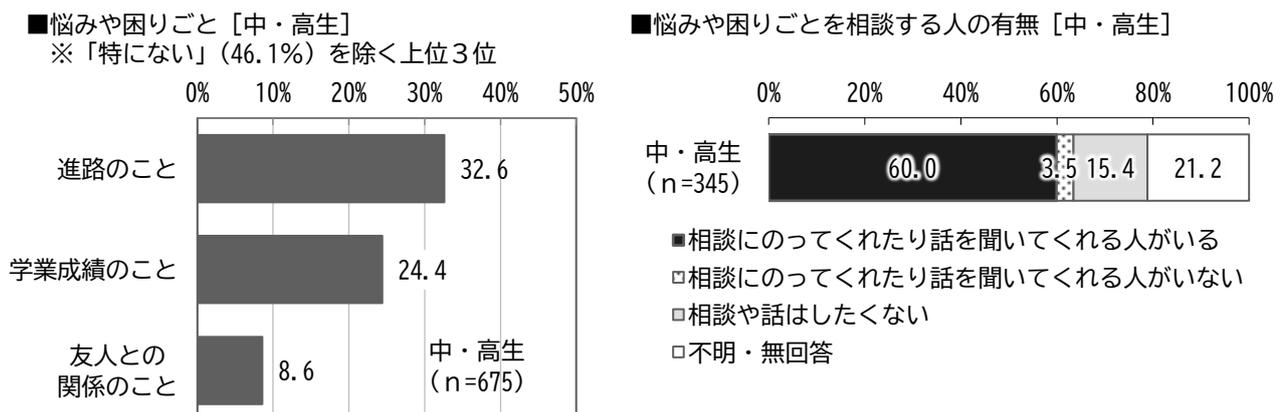
○教職員の回答者の性別は、「男性」が34.8%、「女性」が63.8%、在籍している学校は、「小学校」が71.0%、「中学校」が27.5%となっています。



#### ② ふだんの生活について

○悩みや困りごとは、「進路のこと」が32.6%と最も高く、次いで「学業成績のこと」が24.4%となっています。

○悩みや困りごとを相談する人は、「相談にのってくれたり話を聞いてくれる人がいる」が60.0%と最も高い一方で、「相談にのってくれたり話を聞いてくれる人がいない」が3.5%、「相談や話はしたくない」が15.4%となっています。



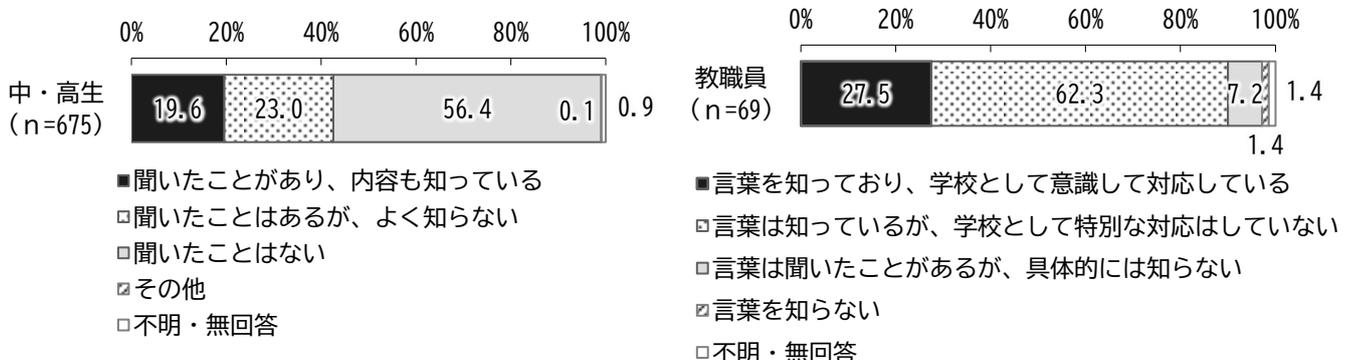
### ③ ヤングケアラー\*について

○「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、中・高生では「聞いたことはない」が56.4%と最も高く、「聞いたことがあり、内容も知っている」は19.6%となっています。教職員では「言葉は知っているが学校として特別な対応はしていない」が62.3%と最も高くなっており、『知らない』（「言葉を知らない」+「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」）が8.6%となっており、「ヤングケアラー」についての周知啓発をしていく必要があります。

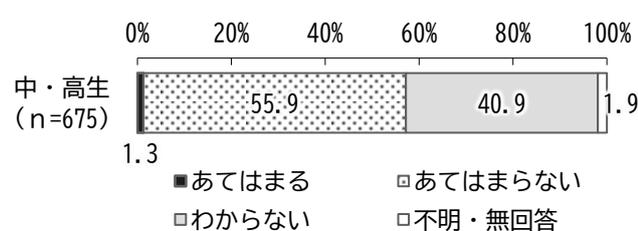
○ヤングケアラーにあてはまるかは、「あてはまる」が1.3%となっている一方で、家族の中でお世話をしている人がいるかは、「いる」が9.3%、教職員が認識しているヤングケアラーだと思われるこどもが「いる（いた）」が33.3%と、自身がヤングケアラーだと認識しているこどもとそうでない潜在的なヤングケアラーも一定数存在していることがうかがえます。

○家族の中にお世話をしている人がいると回答した方のお世話を必要とする人は、「きょうだい」が33.3%と最も高く、次いで「母親」が25.4%となっています。

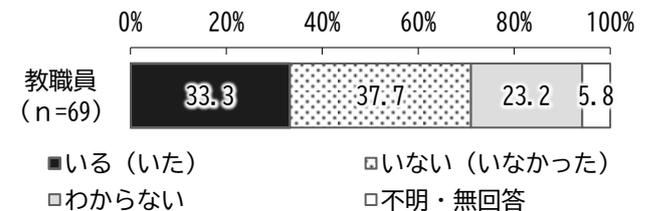
#### ■「ヤングケアラー」という言葉の認知度 [中・高生] [教職員]



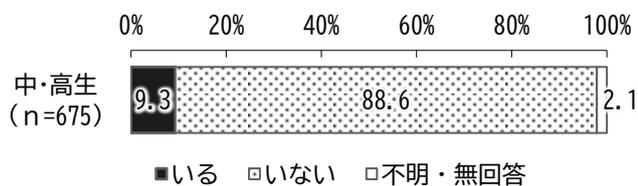
#### ■回答者自身がヤングケアラーにあてはまるか [中・高生]



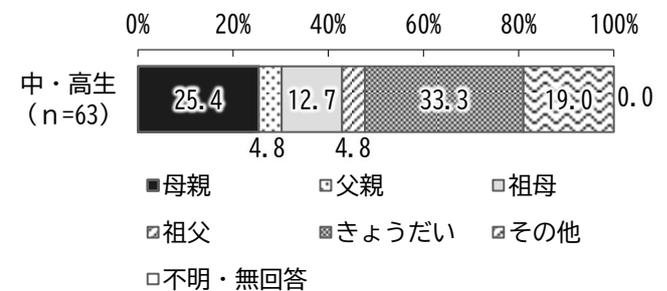
#### ■ヤングケアラーだと思われるこどもの有無 [教職員]



#### ■家族の中にお世話をしている人がいるか [中・高生]



#### ■お世話を必要とする人 [中・高生]

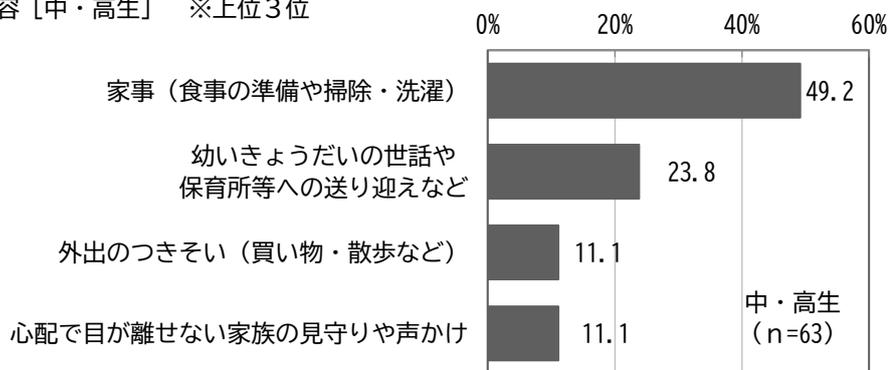


○家族の中にお世話をする人がいると回答した方のお世話の内容は、「家事（食事の準備や掃除・洗濯）」が49.2%と最も高く、次いで「幼いきょうだいの世話や保育所等への送り迎えなど」が23.8%となっています。

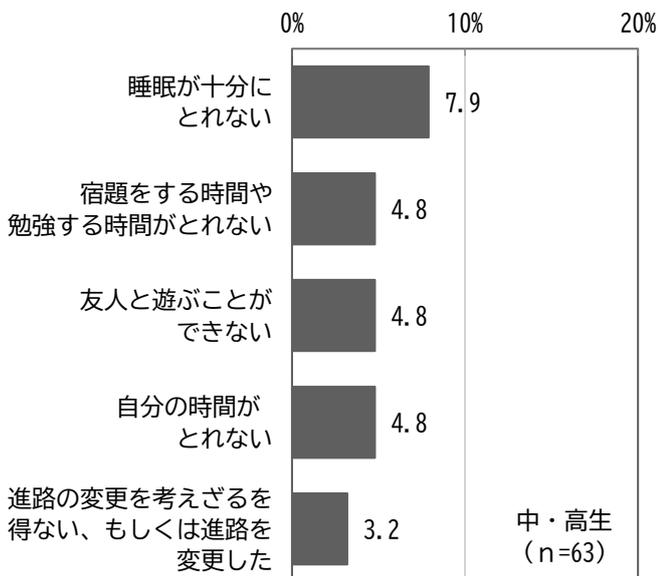
○家族の中にお世話をする人がいると回答した方のお世話があることでの困りごとは、「睡眠が十分にとれない」が7.9%と最も高く、次いで「宿題をする時間や勉強する時間がとれない」「友人と遊ぶことができない」「自分の時間がとれない」がそれぞれ4.8%となっています。

○ヤングケアラーだと思われる児童生徒の学業や生活への影響は、「精神的な不安定さがある」が52.2%と最も高く、次いで「宿題や持ち物の忘れ物が多い」が30.4%となっています。睡眠時間や宿題、勉強をする時間がとれないなど時間の制約により、精神的負担や期限の遅延など学業、生活の影響につながっていることがうかがえます。

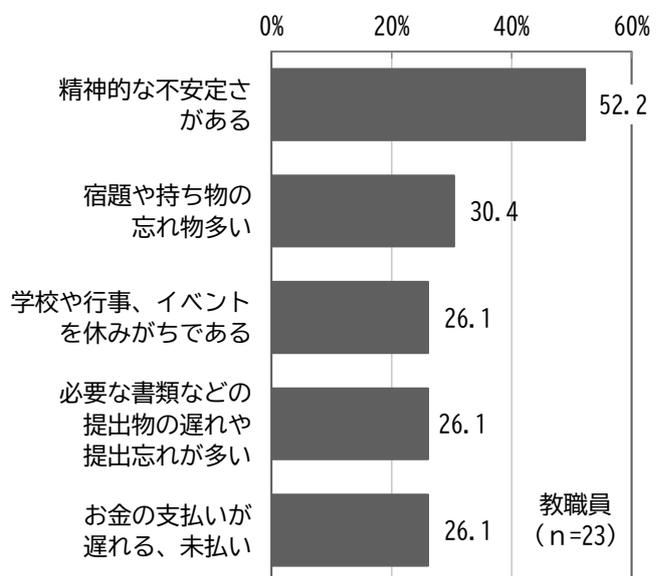
■お世話の内容 [中・高生] ※上位3位



■お世話があることでの困りごと [中・高生] ※「特になし」を除く上位3位



■ヤングケアラーだと思われる児童生徒の学業や生活への影響 [教職員] ※上位3位

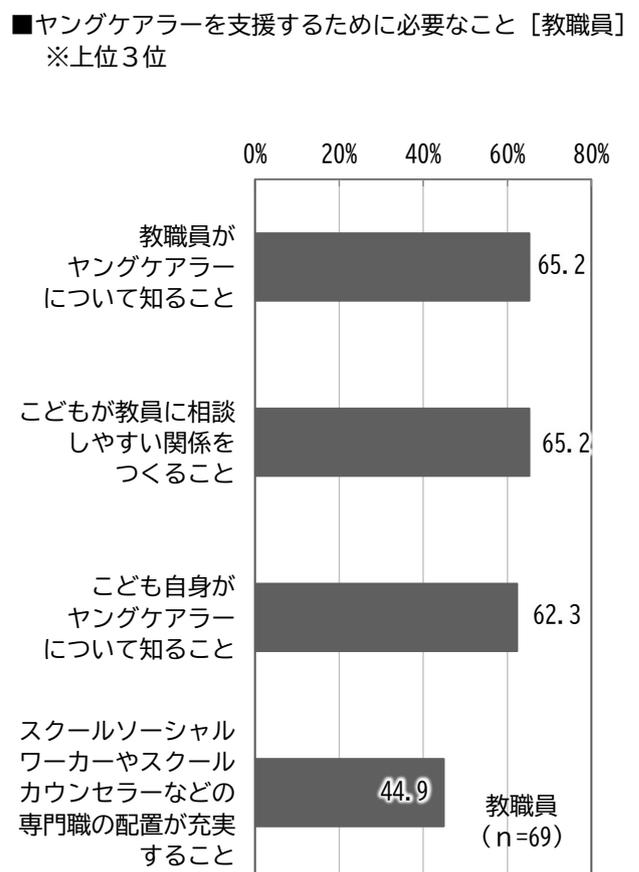
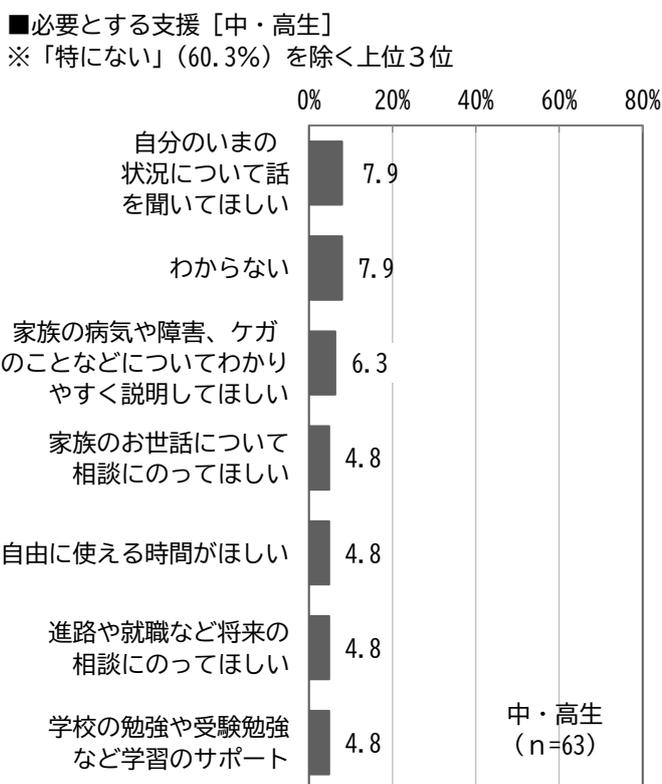
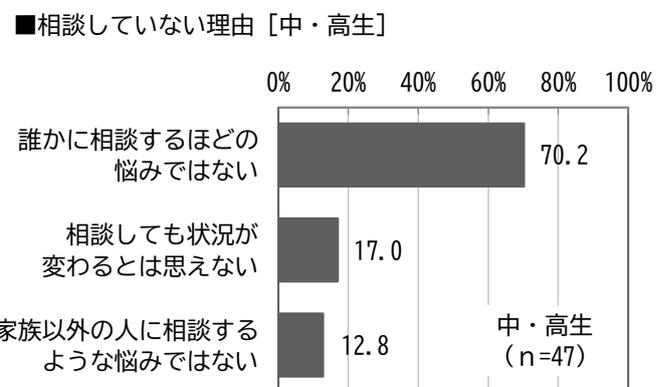
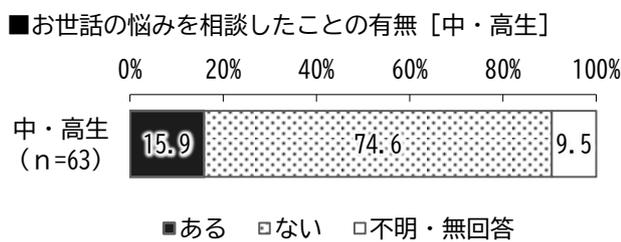


○家族の中にお世話をする人がいると回答した方のお世話の悩みを相談したことの有無は、「ある」が15.9%、「ない」が74.6%となっています。

○相談したことがないと回答した方の相談していない理由は、「誰かに相談するほどの悩みではない」が70.2%と最も高く、次いで「相談しても状況が変わるとは思えない」が17.0%となっています。

○家族の中にお世話をする人がいると回答した方が必要とする支援は、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「わからない」がそれぞれ7.9%と最も高く、次いで「家族の病気や障害、ケガのことなどについてわかりやすく説明してほしい」が6.3%となっています。

○ヤングケアラーを支援するために必要なことは、「教職員がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」がそれぞれ65.2%と最も高く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が62.3%となっています。



## (4) 団体ヒアリング調査結果

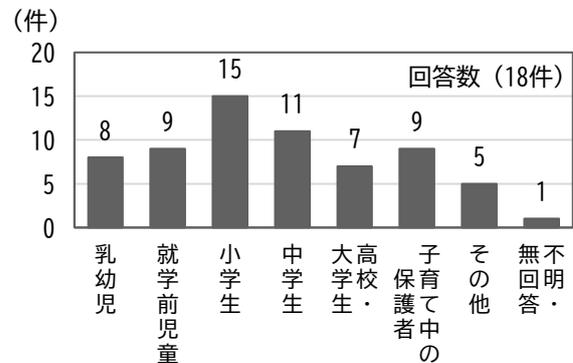
### ① 団体概要

○対象団体は、以下のとおりです。活動団体の対象者は、「小学生」が15件と最も多くなっています。

#### ■対象団体

対象団体	民生委員・児童委員 社会福祉協議会 子育て支援サークル、子育てサークル 教育支援センター 放課後児童クラブ 等
------	--

#### ■活動団体の対象者



### ② 町のこども、子育てを取り巻く環境や子育て支援サービスについて

○こども・若者や子育て家庭を取り巻く課題で特に気になることは、「ヤングケアラーへの支援について」が6件と最も多く、次いで「ひきこもり\*、ニートについて」「こどもの貧困対策について」がそれぞれ5件となっています。

#### ■こども・若者や子育て家庭を取り巻く課題で特に気になること ※上位3位



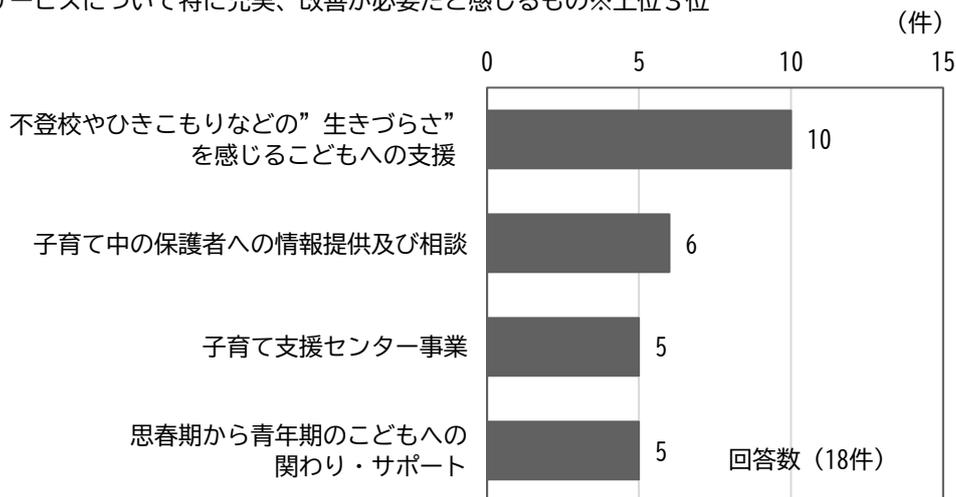
#### ■具体的な内容

選択した項目	具体的な内容 (抜粋)
ヤングケアラーへの支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政アンケートに「ヤングケアラー*が身近にいるため対応強化してほしい」と要望があった。</li> <li>母子ともに障害があり、家族の世話をこどもが中心にしているが、母親からの叱責で体調を崩している。</li> </ul>
ひきこもり、ニートについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援員からひきこもり*や不登校児童の利用依頼を受けるが、来所させる試みが保護者以外からも必要。</li> <li>保護者・支援員・学校・本人・事業所で連携するだけでなく、行政側もかかわれると良い。</li> <li>「ひきこもり*」状態にある人、困っている家族は潜在的に少ないと感じているが、実態把握と支援に協力して取り組む必要がある。</li> <li>親が高齢となることで「親亡き後」が問題になっている。</li> <li>若い頃からひきこもるこどもとその親の課題などを早期発見、対応できれば解消していくと考える。</li> </ul>

選択した項目	具体的な内容（抜粋）
こどもの貧困対策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上市町に転入した児童生徒のいる家庭のうち、教育・福祉面での補助を含めた支援の厚さを転入理由の一つにされるご家庭が増えていると感じる。それに伴い、学校集金の遅延や経費がかかるスキー教室等の学校行事への参加を控えるご家庭も増えている。</li> <li>・ こども食堂で弁当の配布等を行っているが、潜在的ニーズがまだまだあると感じる。</li> <li>・ こどもとその家族に対しての継続的な支援が必要。</li> </ul>
学校教育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ L I N E等のトラブル回避ができず悩んでいる中学生がいる。</li> <li>・ 地域健全育成事業ではなく、もっと開設日が多く、活動内容や専門性の充実した放課後児童健全育成事業が必要。</li> <li>・ ことばの教室*を利用していただいていた児童が小学校に入学した後に不応を起し、相談に来られるケースが毎年一定数ある。入学後も継続して相談、支援できる場があるとよい。</li> <li>・ 保護者の中では、夜間活動中心のクラブチームより、クラスの仲間と楽しく体を動かせる活動を望んでいる。</li> </ul>

○子育て支援サービスについて特に充実、改善が必要だと感じるものは、「不登校やひきこもり\*などの“生きづらさ”を感じるこどもへの支援」が10件と最も多く、次いで「子育て中の保護者への情報提供及び相談」が6件となっています。

■子育て支援サービスについて特に充実、改善が必要だと感じるもの※上位3位



■具体的な内容

選択した項目	具体的な内容（抜粋）
不登校やひきこもり*など“生きづらさ”を感じるこどもへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アウトリーチ、ファミリーサポートが必要。特に送迎サポートによってかなりの不登校児童生徒は救われると考える。学校や施設の送迎をすることで生活習慣を正し、社会とのつながりを取り戻すことができるのではないかと考える。</li> <li>・ 本町の不登校の要因の一つとして、自分自身の生活を優先する保護者・家族（大人）が増えていることが挙げられるように感じる。結果、育児放棄やヤングケアラー*につながり、児童生徒が家庭・学校生活において安心できず、不登校やひきこもり*につながっている。原因となる問題についての解決を図ることができる機関の設置や、現状の組織での連携システムづくりが不可欠だと考える。</li> <li>・ 学校の先生へのアドバイス等、専門機関と連携をとってほしい。</li> <li>・ 定期的なケース会議を経て、訪問支援の継続的な取組が必要。</li> <li>・ 学校ではない居場所の充実が必要。</li> <li>・ 個別にかかわる人員の確保、集まりやすい・相談しやすい場の開設が必要。</li> </ul>

選択した項目	具体的な内容（抜粋）
子育て中の保護者への情報提供及び相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに関する情報や相談できる機関の周知徹底が必要。</li> <li>・相談会の実施や相談窓口の情報提供があると良い。</li> <li>・自分から発信することのできない方が気軽に相談できる場や地域の見守り方法があると良い。</li> </ul>
子育て支援センター事業*	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0～20歳までの切れ目のない支援を、福祉課～教育委員会～福祉課へとつなぐ支援センターの設立を希望。</li> <li>・障害や特性をもった子どもへの理解やかかわり方、「合理的配慮」の情報を共有できる場所、研修、アプリなどの提供があると良い。</li> <li>・「こどもの城」の乳幼児教室は、内容が充実しているが参加人数が少ない。乳幼児教室に関しては、ほかの市町村の参加も可能することで多くの人に来てもらえると良い。</li> </ul>
思春期から青年期の子どもへのかかわり・サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修などを通して、学ぶ場があると良い。</li> <li>・学校、家庭と連携し、本人の意思を確認しながら取り組む訪問支援があると良い。</li> </ul>

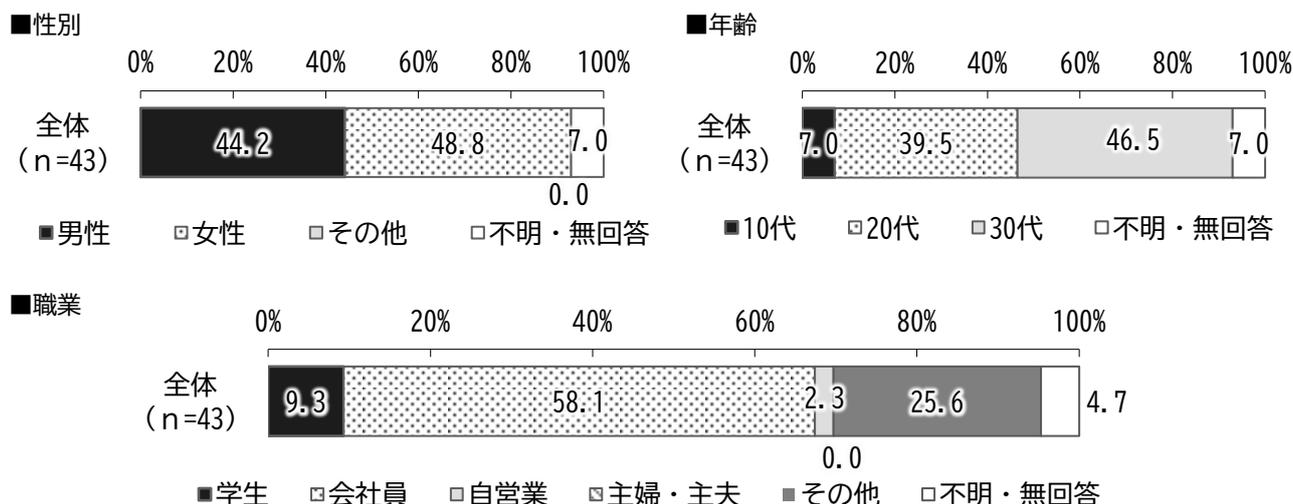
## (5)子ども・若者の意見聴取

### ① 回答者概要

○回答者の性別は、「男性」が44.2%、「女性」が48.8%となっています。

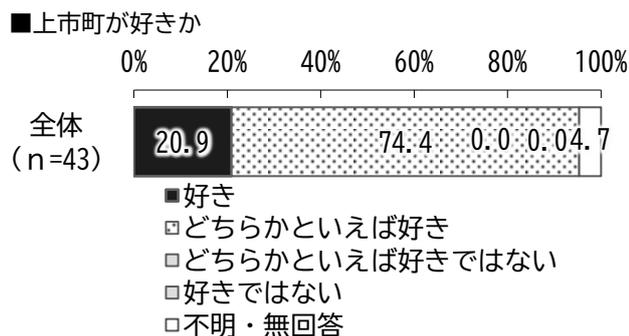
○回答者の年齢は、「10代」が7.0%、「20代」が39.5%、「30代」が46.5%となっています。

○回答者の職業は、「その他」を除き、「会社員」が58.1%と最も高く、次いで「学生」が9.3%となっています。「その他」と回答した方は、保育士や公務員となっています。



### ② 定住意向

○上市町が好きかは、『好き』（「好き」+「どちらかといえば好き」）が95.3%となっています。『好きではない』（「好きではない」+「どちらかといえば好きではない」）と回答した方はいませんでした。



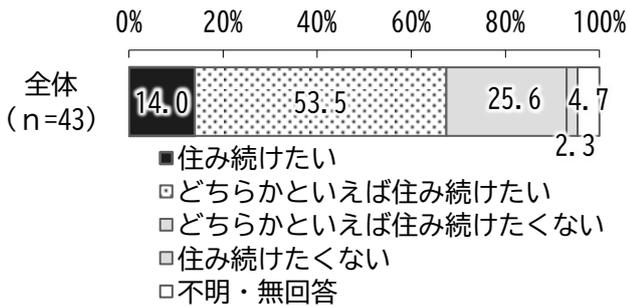
#### ■『好き』と回答した理由（一部抜粋）

- ・自然豊かで人が優しい。
- ・生活していても不便に感じることはなく、自然豊かな中で子どもを遊ばせている。
- ・生まれ育った場所だから。
- ・ちょうどよい田舎なところが落ち着く。
- ・お店や施設等が一定の距離でコンパクトにまとまっている。
- ・災害が少ない。
- ・都市部と比べ過ごしやすい気候。

○上市町に住み続けたいかは、『住み続けたい』（「住み続けたい」＋「どちらかといえば住み続けたい」）が67.5%、『住み続けたくない』（「住み続けたくない」＋「どちらかといえば住み続けたくない」）が27.9%となっています。

○『住み続けたくない』と回答した方の住み続けるために必要な支援は、「働きたい企業がある」「その他」がそれぞれ41.7%と最も高く、次いで「結婚や出産・育児がしやすい支援がある」が33.3%となっています。「その他」と回答した方は、人手不足や交通の不便さを問題視しています。

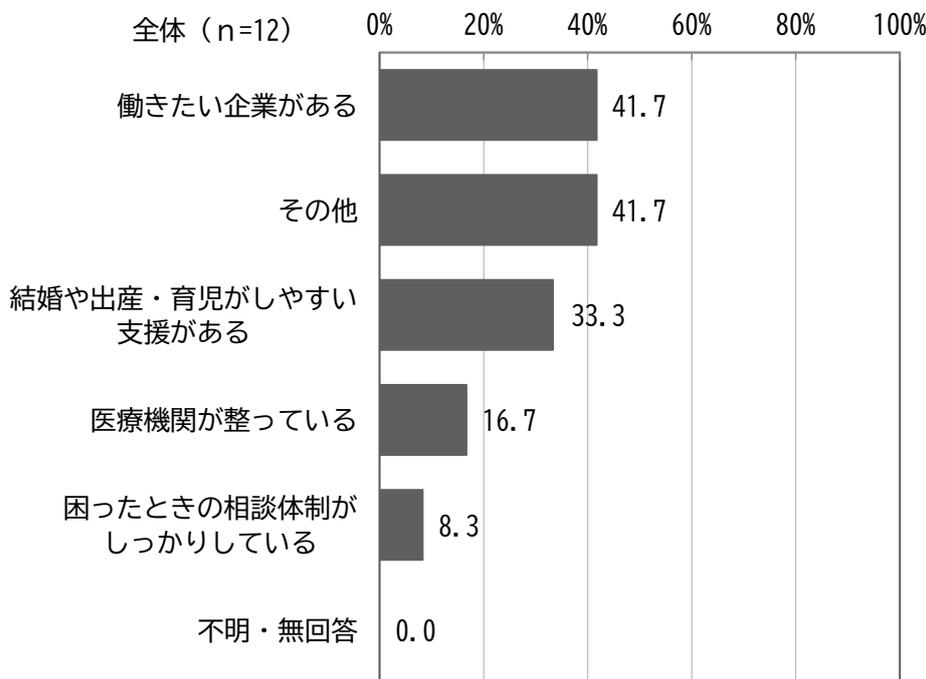
■上市町に住み続けたいか



■『住み続けたい』と回答した理由（一部抜粋）

- ・ずっと住んでいる故郷だから。
- ・家族と一緒に居たいため。
- ・職場が近いため。
- ・スーパーが多いから。
- ・子育てしやすいから。
- ・交通事故や不審者対応への心配が少なく、比較的子どもをのびのび遊ばせられる環境があり、教育面でも安心できるため。

■住み続けるために必要な支援



■具体的な内容

選択した項目	具体的な内容（抜粋）
医療機関が整っている	・24時間土日でも診てくれる。
その他	・人手不足が心配。 ・車が必要なぐらい交通が不便。 ・素質と資格がともに備わった人材育成が必要。

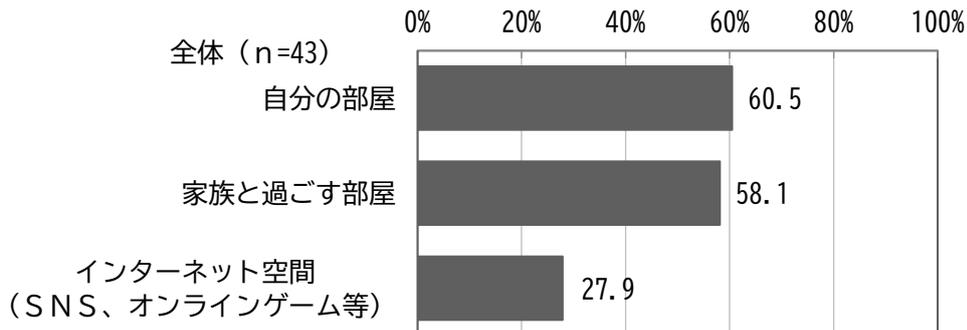
### ③ 居場所について

○普段過ごす場所は、「自分の部屋」が60.5%と最も高く、次いで「家族と過ごす部屋」が58.1%となっています。

○落ち着く場所や安心する場所は、自然を感じる場所や人があまりいない静かな場所、家族や親しい間柄の人がいる場所などが挙げられています。

○あったらいいと思う居場所は、くつろげる場所や娯楽施設、こどもが遊べる場所、若者が交流したり、悩み相談ができる場所などが挙げられています。

#### ■普段過ごす場所 ※上位3位



#### ■落ち着く場所、安心する場所 (一部抜粋)

区分	具体的な内容 (抜粋)
自然がある場所	・自然を感じる場所。 ・自然がありながらも人が多い場所。
静かな場所	・人があまりいない静かな場所。 ・1人で静かに過ごせる場所。
親族・知人がいる場所	・家族のいる場所。 ・親しい人がいる場所。 ・仲間で集まることができる場所。
その他	・1人になれる場所。 ・スポーツをする場所。

#### ■あったらいいと思う居場所 (一部抜粋)

区分	具体的な内容 (抜粋)
くつろげる場所	・穏やかに過ごせる場所。 ・身近にあって気軽にくつろげる場所。
娯楽施設	・落ち着いた喫茶店やカフェスペース。 ・カラオケや映画館などの娯楽施設。 ・こども食堂ではなく、気軽に立ち寄れるみんなのカフェ。
こどもが遊べる場所	・小学生が遊べる施設。 ・こどもが遊べる遊具がたくさんある公園。 ・こどもを一時的に預けておける場所。
その他	・人目を気にせず運動できる場所。 ・交友関係を充実・拡充できる場所。 ・若者がオンラインで交流したり、悩みを相談できる場所。

④ こども・若者の意見反映について

- こども・若者が意見を表明しやすい場や機会は、SNSやインターネット上での意見表明が多く挙げられています。また、匿名性がある方が意見を出しやすいといった意見も挙げられています。
- 対面では、自由に意見を出し合えるよう座談会形式の場や同窓会といった意見が挙げられています。

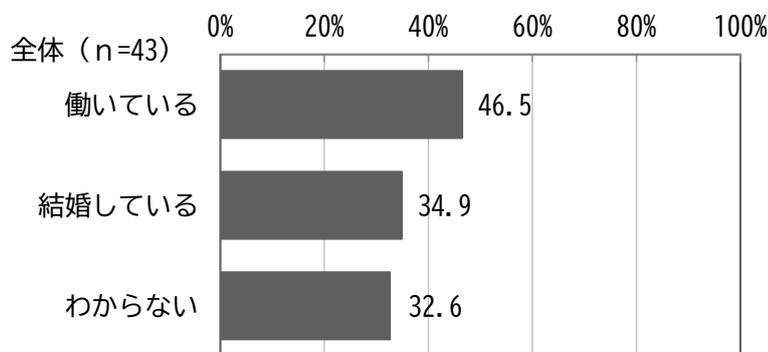
■こども・若者が意見を表明しやすい場や機会

区分	具体的な内容（抜粋）
SNSやインターネット上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSやチャットなどの掲示板で意見を募る、または意見を公表できる機会があるとよい。</li> <li>・ SNSで簡単に悩みや相談をできるような場所。</li> <li>・ SNS上でのアンケートなど、匿名性があるものの方が意見を言いやすい。</li> <li>・ ホームページ上でテーマごとに匿名で意見を募る。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茶話会や飲み会、オンライン交流会など若者自身が進行し、自由に意見を出し合える場があると良いと思う。</li> <li>・ 同窓会。</li> <li>・ ミーティング。</li> <li>・ 職場で意見表明の場を設ける。</li> <li>・ 町長に直接お願いできる機会。</li> <li>・ 学校で意見をとりまとめ、生徒会を通じて意見を聴取する。</li> <li>・ 匿名性があり、報酬が得られるもの。</li> </ul>

⑤ こども・若者や上市町の未来について

- 回答者が考える5年後の自分は、「働いている」が46.5%と最も高く、次いで「結婚している」が34.9%となっています。
- 5年後の上市町への希望は多岐にわたりますが、特にこども・子育てに関しては、子育てしやすく、働きやすい町といった、子育てと仕事を両立できるような支援がある町といった希望が挙げられています。

■5年後の自分 ※上位3位



■ 5年後の上市町への希望

区分	具体的な内容（抜粋）
人口に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口を増やす。</li> <li>・人口が多い町。</li> </ul>
地域の活気や活力に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながりの希薄化が改善されている。</li> <li>・今よりも若者が多く活気がある町。</li> <li>・子育て世帯、独身世帯、高齢世帯などあらゆる世帯の方が他者を思いやりながら、楽しく暮らせる町になると良い。</li> <li>・町に賑わいをつくろうと考え、努力する団体や個人が多くいる町になってほしい。</li> </ul>
こども・子育てに関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもを育てやすい町、働きやすい町、金銭面や時間面で育児の支援をしてくれる町。</li> <li>・子育てがしやすく、働きやすい町になってほしい。</li> <li>・休みにこどもが遊べるようなところが充実してほしい。</li> </ul>
観光に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町外の人が遊びに行きたいと感じる町になってほしい。</li> <li>・地元の人だけでなく、観光客で賑わってほしい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を受け入れ、地域のつながりを大切にしたい、どんな人にも温かく優しい町であってほしい。</li> <li>・町外を巡回するバスが増えてほしい。</li> <li>・さまざまなサービスに簡単にアクセスできるような町になってほしい。</li> </ul>

## 5 こども・若者・子育て家庭に関する本町の主な課題

---

### 課題1 こどもの居場所の充実

全国的に孤独や孤立への不安、児童虐待、不登校、いじめ、ひきこもり\*など、こどもを取り巻く課題が複雑かつ複合化する中、こどもが安心して過ごすことのできる身近な居場所が必要とされています。

本町で実施したニーズ調査では、本町の子育て支援施策に期待することとして、就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに「地域におけるこどもの居場所の充実」が上位になっており、前回調査より高くなっています。また、就学前児童保護者のこどもが小学校低学年になったときに放課後過ごす場所の希望として「放課後児童クラブ」が最も高く、かつ、「放課後子ども教室」が上位に挙げられています。こどもが孤立することがないよう地域におけるこどもの居場所づくりや放課後児童クラブ、放課後子ども教室の充実が求められます。

また、こども・若者の意見聴取において、安心できる場所として「自分の部屋」や「家族と過ごす部屋」が上位になっており、家庭はこども・若者にとって最も身近で大切な居場所であるといえます。そのため、こども・若者にとって居心地の良い家庭環境の大切さについて一層の理解が求められます。

### 課題2 健やかな成長を促す学習機会の充実

こどもが主体的に学び、成長し、夢や希望をもって自立していくために、自己を高められる多様な学びや体験の機会が保障されることが重要です。

本町で実施したヤングケアラー調査では、中・高生の悩みとして「進路」や「学業成績」が上位に挙がっています。また、ニーズ調査において、就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに本町の子育て支援施策に期待することとして「家庭教育向上のための学習機会の充実」が前回調査と比べて10.9ポイント高くなっています。家庭、学校・園、地域が協力・連携し、地域全体でこどもの学びと心身の成長を切れ目なく支え、促していく取組が求められます。

### 課題3 安全・安心な生活環境

全国的に子ども・若者を狙った悪質な犯罪や、子どもが巻き込まれる事故等が後を絶たない状況にある中、子ども・若者が犯罪や事故に巻き込まれることがないように、安全・安心に生活できる環境を整えることが必要とされています。

本町で実施したニーズ調査では、就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに本町の子育て支援施策に期待することとして「犯罪や事故から子どもを守るための対策」が上位になっています。子どもが安全で健やかに過ごすことができ、子どもと保護者が安全・安心に過ごせるよう、地域が一体となって犯罪や事故が起こりにくい環境づくりに努めていく必要があります。また、子ども自身も自分の身は自分で守ることができるよう、犯罪、事故に巻き込まれないための教育の充実が求められます。

### 課題4 保健・医療の支援

子ども・若者等が健やかに成長するためには、妊娠期から学童期・思春期、成人期にかけての切れ目ない保健・医療の支援が必要とされています。

本町で実施したニーズ調査では、就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに本町の子育て支援施策に期待することとして「子どもに関する医療体制の充実」が上位に挙げられています。さらに、子ども・若者の意見聴取において、本町に住み続けるために必要な支援として「医療機関が整っている」が挙げられています。妊娠期から子育て期の各種健診の充実や子どもの成長に合わせた保健・医療サービスの充実が重要です。

### 課題5 こころの健康への支援

子ども・若者が自らの心身の健康を保てるよう、相談体制やこころのケアの充実が重要です。

本町で実施したヤングケアラー調査では、不安や悩みは「特にない」と回答した中・高生が4割台となっていますが、半数程度は何らかの不安や悩みを抱えています。不安や悩みを抱えている中・高生の相談先は、「相談や話はしたくない」が1割を超えています。また、子ども・若者の意見聴取においては、あったらいいと思う場所として「悩みを相談できる場所」が挙げられています。子ども・若者が不安や悩みを溜め込むことがないように、相談しやすい体制整備、場所づくりや子ども・若者自身がSOSの出し方、セルフケア等の知識を身につけることが必要です。

## 課題6 支援を必要とするこども・若者への支援

虐待を受けたこどもやヤングケアラー\*、障害児、ひとり親世帯、貧困家庭のこども等が、まわりのこどもと等しく学び、成長の機会が得られるよう、支援を必要とするこども・若者への支援を充実させ、格差を解消し良好な成育環境をつくることが必要とされています。

本町では、児童虐待相談件数、ひとり親世帯、障害児が、年によって変動はありますが、一定数存在しています。また、団体ヒアリングにおいて、活動していて特に気になる課題として「ヤングケアラー\*への支援」「ひきこもり\*、ニートへの支援」「こどもの貧困対策」が上位に挙げられています。支援を必要とするこども・若者及びその家庭が取り残されることがないように、それぞれの状況に応じた適切な支援や相談体制の充実が重要です。

## 課題7 すべての子育て世帯を支えるサービス・環境

全国的に核家族化の進展や地域のつながりの希薄化など家庭をめぐる環境が変化している中で、子育て世帯が子育てに関する不安や孤立感を抱くことなく健康でゆとりをもってこどもと向き合えるようにすることが、こども・若者の健やかな成長に必要です。

本町においても、核家族化が進展しており、ニーズ調査においては、就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が前回調査と比べて減少しており、「いずれもない」が就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに約1割となっています。また、年少人口は減少していますが、若年女性の労働力率は増加している等就労状況や各家庭のあり方が多様化しています。孤立する家庭がないように地域全体で子育て世帯を支える環境づくりやそれぞれのニーズに対応できるよう支援サービスの充実を図る必要があります。

## 課題8 仕事と子育てが両立できる環境

社会において女性の活躍推進が求められている中、育児を含めた家庭内の役割分担のバランスを図り、仕事と子育ての両立ができる環境を整備することが必要です。

本町では、女性の労働力率が増加しており、ニーズ調査では、就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに現在就労していない母親の就労意向は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が3割台と就労意向のある母親の割合が高くなっています。また、主に子育てをしている方が「父母ともに」がそれぞれ6割台と高くなっている一方で、「主に母親」が3割台となっています。さらに、父親の育児休業取得率は前回調査より10ポイント以上高くなっていますが、母親の育児休業取得率と比較すると59ポイント下回っており、依然として母親の育児にかかる負担が大きいことがうかがえます。仕事と子育てを両立できるよう、共働き・共育ての推進や父親の子育て参画に向けた情報提供や支援の充実などが求められます。